

平成 30 年 度
決 算 状 況 に つ い て

岡 崎 市

1 一般会計

引き続き健全な財政状況を維持

【利益】純剰余金は45億円

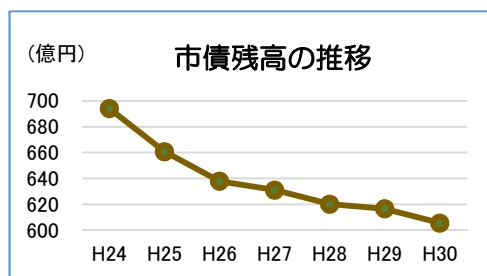
利益にあたる純剰余金は、前年度の47億2,833万円を下回るものの**45億744万円**の黒字となった。

【貯金】財政調整基金残高は100億円を上回る残高を維持

貯金にあたる財政調整基金は、平成30年度末では**121億5,910万円**となった。
また、純剰余金45億744万円のうち、**30億円**を財政調整基金に積み立てることとで、令和元年度末においても100億円を上回る残高を維持できる見込みである。

【借金】市債残高は6年連続で減少

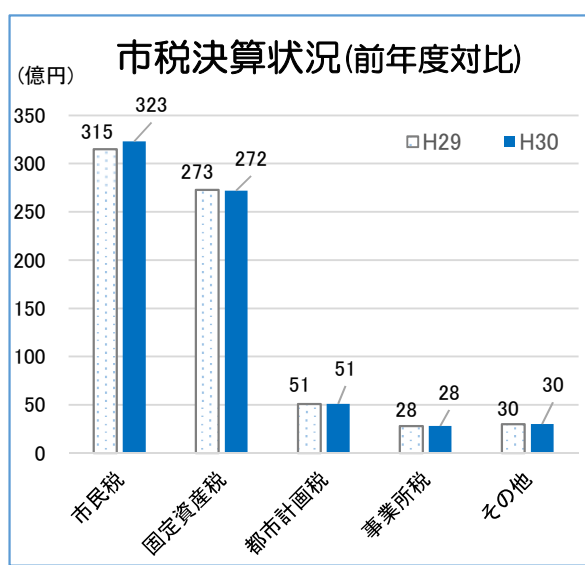
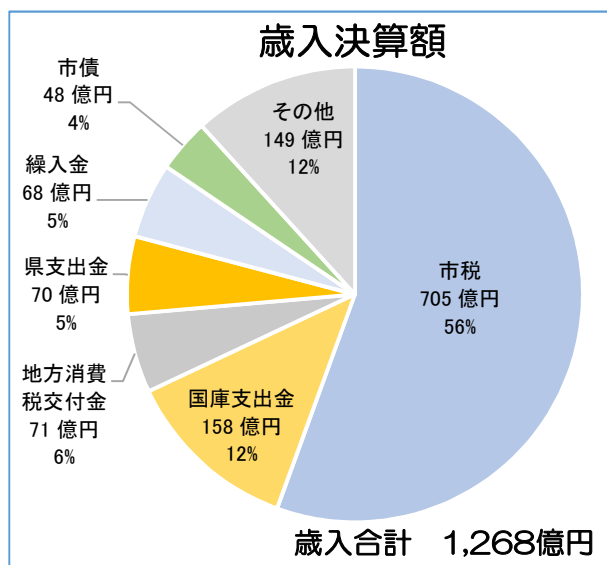
借金にあたる市債残高は、前年度と比較し約11億円減の**605億5,688万円**となり、6年連続で減少となった。



歳入

◆市税収入は過去最高額

歳入決算額は、前年度対比99.8%の1,268億2,561万円と前年度を下回ったものの、歳入の56%を占める市税の決算額は、前年度対比101.1%、7億4,938万円の増となる**704億8,048万円**と過去最高額となった。



※グラフ中の数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります(以降のグラフも同様です。)

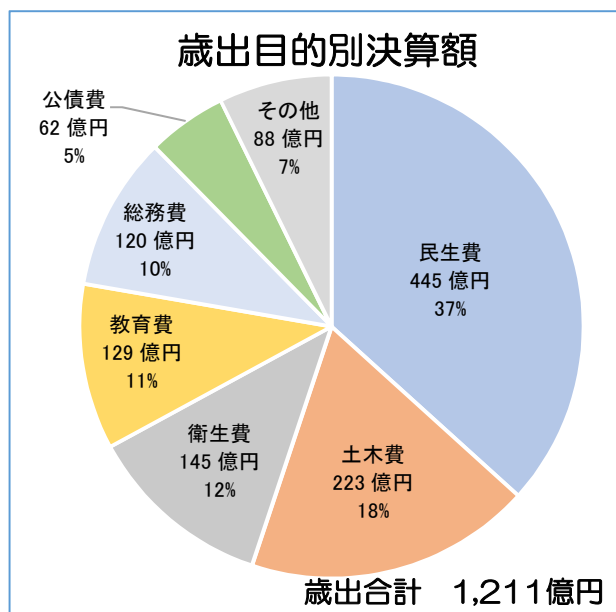
歳 出

◆持続可能なまちづくり

将来にわたり成長する持続可能なまちづくりを進めるとともに、市民福祉の向上、まちの活性化・魅力創出を図る施策を展開してきた。

歳出決算額は、前年度対比 99.8%の 1,211 億 3,985 万円となり、予定していた施策を執行することができた。

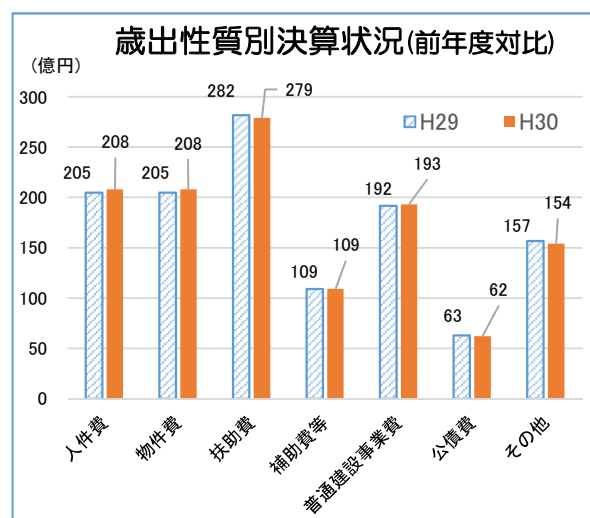
目的別の決算額は、福祉分野の支出となる民生費が全体の 37%を占める 444 億 6,770 万円と最も大きく、次いで土木費、衛生費、教育費、総務費の順となっている。



◆バランスを取りながら投資事業を実施

性質別の決算額は、扶助費は、障がい福祉サービス費、障がい児通所給付費の増があったものの、臨時福祉給付金が終了したことなどにより、前年度対比 98.9%の 278 億 8,310 万円となった。

普通建設事業費は、友愛の家施設購入費、救急医療拠点施設整備支援、乙川リバーフロント地区整備、上地新川改修、小学校施設保全などの増により、前年度対比 100.5%の 192 億 7,076 万円となった。



<主な事業>

- ・旧ぬかた会館施設保全業務：4,683 万円
- ・上地新川改修業務：6 億 7,684 万円
- ・救急医療拠点施設整備支援業務：20 億円
- ・友愛の家整備運営業務：6 億 2,553 万円
- ・放課後対策施設整備業務：7,777 万円
- ・阿知和地区工業団地造成事業推進業務：5,138 万円
- ・観光イベント推進業務：2 億 566 万円
- ・東岡崎駅周辺地区整備推進業務：8 億 2,219 万円
- ・岡崎駅南土地地区画整理事業費補助業務：6 億 8,218 万円
- ・シビックコア地区整備業務：4 億 6,061 万円
- ・乙川リバーフロント地区整備推進業務：17 億 8,441 万円
- ・旧耐震住宅除却事業費補助業務：1,652 万円
- ・龍北総合運動場整備業務：1,122 万円
- ・小学校施設保全業務：14 億 1,641 万円
- ・証明書コンビニ交付業務：5,680 万円



友愛の家（福祉の村）

2 特別会計

12 会計の総計では、歳入決算額は 624 億 8,585 万円、歳出決算額は 618 億 1,674 万円で、歳入歳出差引額は 6 億 6,912 万円となった。翌年度へ繰り越した事業の充当財源を控除した純剰余金は 6 億 6,486 万円で、前年度対比 74.6%となった。

3 企業会計

病院事業会計

外来患者数は前年度と比較して減少したものの、入院患者数は前年度と比較して増加しており、病床利用率は 81.4%で前年度と比較して 1.3%の増加となった。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、入院及び外来収益の増加などで、前年度と比較して 10 億 4,410 万円の増加、支出は、給与費や薬品費の増加などで、前年度と比較して 8 億 3,862 万円の増加であった。その結果、収支差引では、△2 億 4,879 万円、税抜きで 2 億 6,098 万円の純損失となった。

水道事業会計

給水戸数、給水人口はともに前年度と比較して増加しており、普及率は 99.0%で前年度と同率となった。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、他会計からの負担金の減少などで、前年度と比較して 2,417 万円の減少、支出は、前年度一時的に発生した旧男川浄水場に係る資産減耗費の影響などで、前年度と比較して 5 億 9,625 万円の減少であった。その結果、収支差引では、15 億 1,780 万円、税抜きで 12 億 8,731 万円の純利益となった。

下水道事業会計

下水道への接続戸数、接続人口はともに前年度と比較して増加しており、普及率は 88.7%で前年度と比較して 0.3%の増加となった。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、他会計からの負担金の増加などで、前年度と比較して 2 億 2,413 万円の増加、支出は、減価償却費の増加などで、前年度と比較して 9,545 万円の増加であった。その結果、収支差引では、8 億 294 万円、税抜きで 5 億 6,306 万円の純利益となった。